

人生を動かす出会い & 読書 ～ 開いた扇の要 ～

2025 年 4 月 16 日、順天堂大学保健医療学部・診療放射線学科『病理学概論』と『がん医療科学』の 2 コマの授業に赴いた。『がん医療科学』のテキストは、
【『がん細胞から学んだ生き方 ～『ほっとけ 気にするな』のがん哲学』】(へるす出版 2021 年)(画像)を用いた。今回、下記の箇所を音読しながら進めた。

第 1 章『医療者としての原点』

人生を動かす出会い
背中に温かい視線を感じて
因幡の白兔が教えるもの
故郷をメデイカルヴィレッジに
畳一枚ほどの墓
首尾一貫する大切さ
新渡戸稲造の『桃太郎』
人生は開いた扇

【人生を動かす出会い】の箇所では、

【私は 19 歳の時、東京大学総長を務めた政治学者の南原繁の講義を法学部の学生時代に受けられた人物に出会った。そして『専門外の本を寝る前に 30 分読む習慣を身につけるといいよ。毎朝、顔を洗って歯を磨くように習慣化する。習慣にすることが大事なんだ』と教えてもらった。早速、10 巻におよぶ『南原繁著作集』（岩波書店）を買って読みはじめた。読んでいると『何かをなす（to do）前に、何かであること（to be）をまず考えよというのが、新渡戸稲造先生のいちばん大事な教えだったと思います。『明治、大正、昭和を通じて、これほど深い教養をもった先生はなかったと言ってよい』という南原繁の言葉に背中を押されて、新渡戸稲造の書籍も読むようになった。さらに新渡戸稲造と札幌農学校時代の同級生であった内村鑑三の書籍も購入した。このように読み進めていくと、新渡戸稲造と内村鑑三に影響を受けた経済学者の矢内原忠雄にも出会った。出会いが、いかに人生を豊かにするか！】と語った。

まさに【出会い & 読書 = 開いた扇の要】(画像)が『教育の真髓』であろう！

がん細胞 から学んだ 生き方

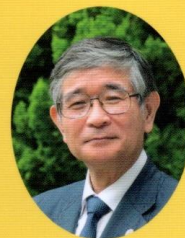
「ほっとけ 氣にするな」の
がん哲学

樋野興夫

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長

がん細胞で起こることは、 人間社会でも起こる

病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。



へるす出版

